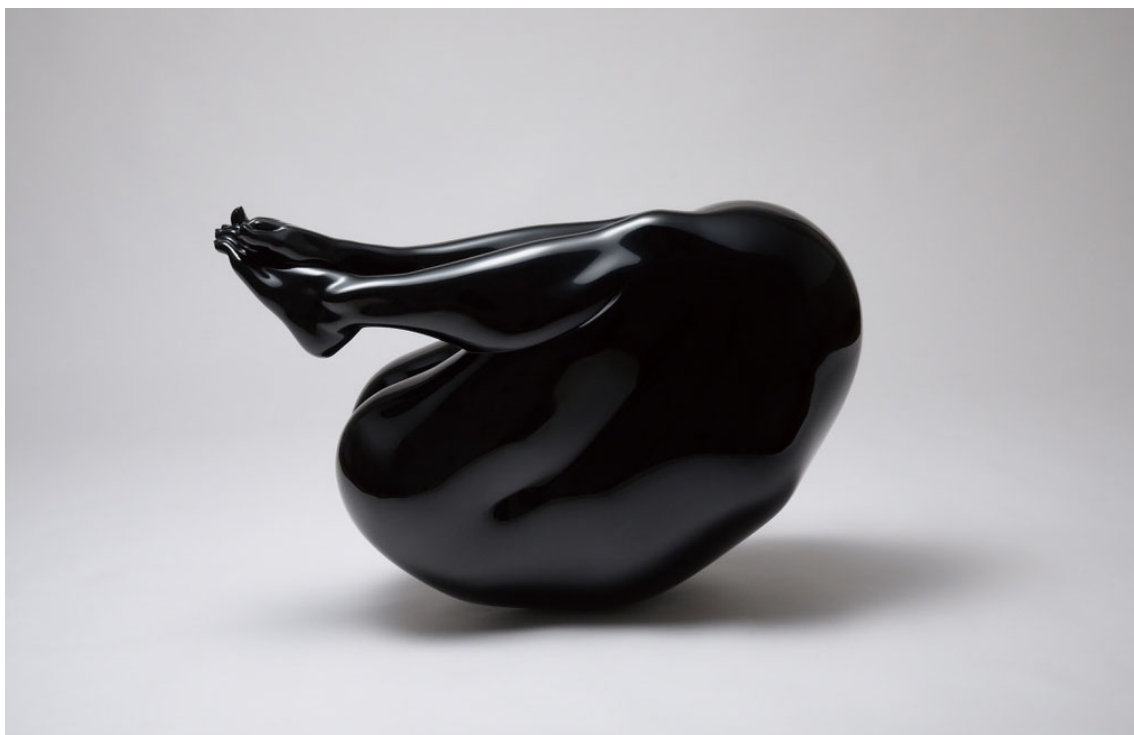


SOKYO
ATSUMI



青木千絵《BODY 22-2 - 生命の記憶-》、2022、漆・麻布・発泡スチロール、H56 x W93 × D44 cm
© Chie Aoki Photo : Hiraku Ikeda

青木 千絵
沈静なる身体 / Tranquil Bodies

内覧会：2023年1月27日（金）13:00 - 19:00
2023年1月28日（土） - 2023年3月10日（金）

SOKYO ATSUMI

140-0002 東京都品川区東品川 1-32-8 TERRADA ART COMPLEX II 3階 #304
開廊時間：11:00 - 18:00（火 - 木） 11:00 - 19:00（金・土） 休廊日：日・月

SOKYO ATSUMI

140-0002 東京都品川区東品川 1-32-8 TERRADA ART COMPLEX II 3階
+ 81 (0)80 7591 5212

プレスリリース

SOKYO ATSUMI（東京）では、青木千絵 個展「沈静なる身体」を開催いたします。本展は、SOKYO ATSUMI における青木の初個展となります。

青木作品は、森美術館（～3月26日）にて同時開催中のグループ展「六本木クロッシング 2022 展：往来オーライ！」に大型作品も含め4点出展しております。青木は学生時代に出会った漆を使って、具象的な人体表現と抽象的な物質描写を融合した作品を制作してきました。これまでに艸居（京都）では、2018年と2021年に青木の個展を開催しています。また、本展では青木の代表的なシリーズである《BODY》の最新作を中心に、「ドロイングから」と題した抽象作品、そして近年の新しい取り組みであるドロイングを発表いたします。

なめらかなフォルムと漆黒の深い艶が同居した青木の作品《BODY》は、乾漆造りという伝統的な工芸技法で制作されています。乾漆は、像の上に布を貼っていき、非常に薄い漆を塗り重ねて造形します。青木にとって、このような乾漆の制作過程が作品性にも通じている部分があると言います。

青木の作品はうつむいたり、横たわったり、座り込んだり、立ち尽くしたりと、「外界から遮断するような」[注]孤立感を鑑賞者に与えます。内向的で、殻に閉じこもったような表現から、2021年の艸居での個展を機に、個展タイトルともなった「融体化する身体」に象徴される近作は他者と自己が融合していくイメージへと、作品の核の部分を保ちつつも変化し続けています。

無限の奥行きを思わせる漆黒の色彩と光沢は青木の作品の大きな特徴といえるでしょう。黒という光を吸収する色でありながらそれを拒むように反射する表層と、漆を幾重にも重ねることで堅牢な殻のようになっていく乾漆の技法は、現代社会における人間の孤独や不安に向き合おうとする青木作品の精神性と深く共鳴しています。

本展で特に注目すべき作品は、高さが約150cmの大作《BODY 22-3 宇宙を懐く》です。立っている人物は液状化しながら、地面に引き寄せられているようでもあり、目に見えない大きな力を感じさせる作品です。それと同時に、赤みを帯びた漆の色が漆黒とグラデーションになって、人物と物質の境界をゆるやかに表現しています。

青木作品に見られる硬く美しい漆の表面は、弱くて醜い人間を逞しく美しい存在に変えてくれているかのようなのです。是非この機会にご高覧いただけますと幸いです。

[注]青木千絵「漆黒の身体-愛おしい人間の存在-」『青木千絵』艸居、2018年、46頁

作家略歴

青木千絵 あおき・ちえ

1981年岐阜県生まれ。2010年金沢美術工芸大学大学院 博士後期課程 美術工芸研究科 工芸研究領域 漆・木工コースを修了（修芸術博士号取得・学長賞）。現在は金沢美術工芸大学工芸准教授を務めつつ、石川県野々市市にて制作を行う。

主な個展は2011年「URUSHI BODY」INAX ギャラリー2（東京）、2017年「美術の中のかたち— 手で見る造形 青木千絵展 漆黒の身体」兵庫県立美術館（神戸・兵庫）、2018年「孤独の身体」艸居（京都）、2021年「融体化する身体」艸居（京都）などがある。

主なグループ展には2014年「ヒトのカタチ、彫刻」静岡市美術館（静岡）、2016年「HUBEI INTERNATIONAL TRIENNALE OF LACQUER ART 2016」湖北美術館（武漢・中国）（同2019年）、「蜘蛛の糸」豊田市美術館（豊田・愛知）、2017年「Hard Bodies: Contemporary Japanese Lacquer Sculpture」ミネアポリス美術館（ミネアポリス・ミネソタ・アメリカ）、2019年「第4回金沢・世界工芸トリエンナーレ」金沢21世紀美術館（金沢・石川）、「Design Miami 2019」Miami Beach Convention Center（マイアミ・フロリダ・アメリカ）、2021年「フェミニズムズ／FEMINISMS」金沢21世紀美術館（金沢・石川）、2022年「Arts Towada 十周年記念「インター+プレイ」展 第3期」十和田市現代美術館（十和田・青森）、2022-23年「六本木クロッシング2022展：往来オーライ！」森美術館（東京）など他多数。

受賞歴には2005年日本漆工奨学賞、2019年金沢・世界工芸コンペティション優秀賞がある。コレクションには金沢美術工芸大学（金沢）、ミネアポリス美術館（ミネアポリス・ミネソタ・アメリカ）、湖北美術館（武漢・中国）、徳島県立近代美術館（徳島）、モリカミ美術館（マイアミ・フロリダ・アメリカ）、伊順芸術空間（瀋陽・中国）、イセ文化基金（富山）がある。

出品作品（一部）



青木千絵 《BODY 22-3—宙を懐く—》、
2022、漆・麻布・発泡スチロール
H147 × W92 × D85 cm



青木千絵 《Drawing_#10》、2021、
紙・木炭、H51 × W35.5 cm



青木千絵 《BODY 21-6 —空虚の影—》、
2022、漆・麻布・真菰粉・発泡スチロール
H150 × W43 × D60 cm



青木千絵 《BODY 22-1—^{おろ}權—》、2022、
漆・麻布・発泡スチロール、H50 × W98 × D44 cm

是非、貴社・貴誌にてご紹介いただけますと幸甚に存じます。
掲載用、写真の貸出などご質問がございましたら下記までご連絡頂きますと幸いです。

プレス担当（東京）：金田 幸
〒140-0002 東京都品川区東品川 1-32-8 TERRADA ART COMPLEX II 3階 #304
Mail: sokyoAtsumi@gallery-sokyo.jp Tel: 080-7591-5212